

日本磁器ヨーロッパ輸出350周年記念「パリに咲いた古伊万里の華」

記念講演会

「海を渡った古伊万里」

大橋康二氏（前・佐賀県立九州陶磁文化館館長、本展監修者）

1659（万治2）年のヨーロッパへの輸出開始から約100年間に、多くの伊万里磁器が海を越えました。輸出が始まった初期の時代から、柿右衛門様式と呼ばれる優美な色絵磁器の時代へ、そして豪華絢爛な大作が多く作られた金襴手へと、100年間の間に古伊万里もその様相を大きく変えていきました。

本展覧会では、ヨーロッパに渡った古伊万里を収集したUSUI COLLECTIONの中から選び抜かれた165点の作品によって、100年の間に古伊万里がたどった大きな流れを感じていただき、それらを通して、ヨーロッパの人々がどのように古伊万里を愛したのかをご覧ください。

本展覧会を監修し、USUI COLLECTIONの形成にあたって助言している大橋康二（おおはしこうじ）氏は、肥前磁器研究の第一人者であり、海を渡った陶磁器について、じつに幅広い見識をお持ちの方です。輸出磁器ならではの特徴や時代背景など、USUI COLLECTIONを中心にお話いただきます。



色絵花鳥文蓋付大鉢（1720～50年代）
© USUI COLLECTION

記念講演会「海を渡った古伊万里」

開催日	2010年11月6日（土）14:00～15:30
場所	当館研修棟1Fセミナー室
定員	100名（事前申込み、先着順）
講師	大橋康二氏（前・佐賀県立九州陶磁文化館館長）

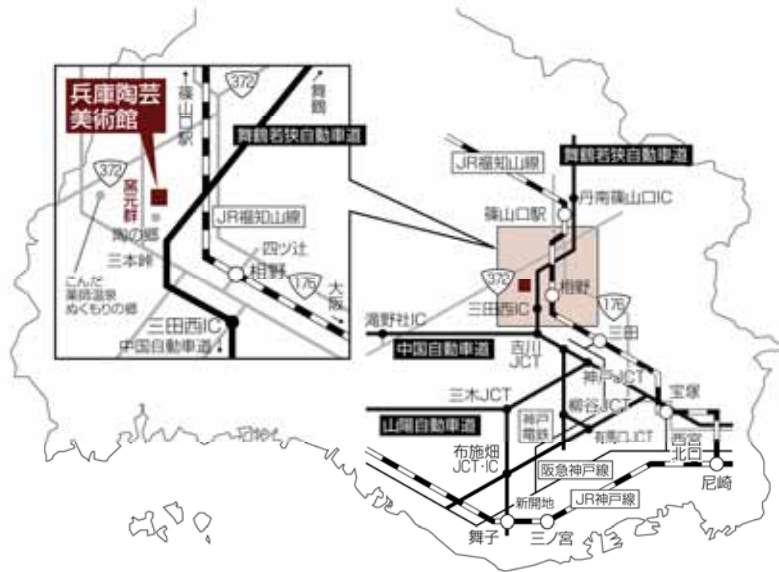
大橋康二（おおはしこうじ）氏プロフィール

1948年生まれ。学習院大学経済学部卒業、青山学院大学大学院で考古学を専攻。佐賀県に入り、佐賀県立九州陶磁文化館の立ち上げから関わる。同館館長を2008年に退任。現在、同館の特別学芸顧問。肥前磁器を窯跡での研究から始め、国内の消費遺跡、さらには海外での出土資料、伝世品調査と進めてきた。日本のみならず、世界的な肥前陶磁研究の第一人者。東洋陶磁学会常任副委員長。本展覧会では監修者をつとめた。主な著書に『世界をリードした磁器窯・肥前窯』（新泉社、2004年）、『海を渡った陶磁器』（吉川弘文館、2004年）などがある。

お申し込みにあたって

注1) 館内の駐車場は無料です。またレストランや自動販売機もあります。

注2) お申し込みは、下の申込書の各欄をご記入のうえ、この面をFAXか郵送でお送りください。また、当館ホームページからもお申し込みいただけます。



交通のご案内

〔自動車の場合〕

舞鶴若狭自動車道・三田西 IC より約 15 分
 または丹南篠山口 IC より約 20 分
 中国自動車道・滝野社 IC より国道 372 号
 を東へ約 30 分
 阪神方面より国道 176 号を北上、三田市
 四ツ辻信号を左折約 15 分

〔JR・バスの場合〕

福知山線「相野駅」下車
 (大阪駅から約 50 分)
 駅前より神姫バス「兵庫陶芸美術館」行き
 または「清水」行き乗車約 15 分
 「兵庫陶芸美術館」にて下車

記念講演会「海を渡った古伊万里」 参加申込書

(ふりがな) お名前		性別	男性 ・ 女性
ご住所	〒 -		
お電話番号	-	FAX	-
Eメールアドレス			

【お問い合わせ・お申し込み先】 **兵庫陶芸美術館** 〒669-2135 篠山市今田町上立杭 4
 TEL 079-597-3965 FAX 079-597-3967
 ホームページ <http://www.mcart.jp> 電子メール ホームページからどうぞ

【個人情報の取扱い】 本講演会の参加申込みに係る個人情報は、お客様への「当館からの連絡・お知らせ」のみに活用し、これらの目的以外には使用しません。